

金沢大学〈角間〉 キャンパスマップ

富山県立波田へ

俵町・底玉



角間キャンパス周辺マップ

N
L



※各番号の解説については裏面をご覧ください。

金沢大学〈角間〉あれこれガイド

金沢の歴史を引き継ぐもの

⑧ 旧大学標石（揮毫：石橋雅義第2代学長）
旧城内キャンパス石川門前にあった標石で、1996年3月、角間キャンパス本部棟前に移設された。高知県産の自然の梅林石で、石橋先生の揮毫による正門標石として長く金沢市民・観光客にも親しまれた。



⑨ 石碑「行不由徑」（「行くに徑に由らず」と読む。出典：論語）

第3代学長の中川喜之助先生の書で、法文学部同窓会が先生の退官を記念して1973年9月、旧城内キャンパス本部棟前に寄附し設置した。1995年3月に移設された。「道を行くなら小道をではなく大道を歩むべき」の意。



⑩ 「北の都並木」記念碑

1995年1月に法・経・文学部同窓会東京支部が植えたケヤキ並木（文学部棟近く）が毎校のシンボルとなるようにとの願いを込めて、1992年5月、文・法・経済学部棟入り口付近に設置された記念碑。毎年のように開かれている四高同窓会に出席の大先輩たちが、この碑の前で古旗を振って「北の都」や「南下草」などの寮歌を高唱している。



⑪ 全国都市緑化フェア出展記念碑

2001年9月～11月にかけて開催された「第18回全国都市緑化いしかわフェア」に、アカンサスをモチーフに「光・水・緑と大地のハーモニー」と題した庭園を出展した。庭園のうち、ニューコリント式柱頭を戴いた人工戸室石による円柱3本と「水」をモチーフにしたベンチを移設したもの。（監修：宮下寿晴、円柱：廣瀬幸雄、柱頭：鷺山峰）



⑫ モニュメント「金澤の川の源」

1999年5月の本学創立50周年を記念して、卒業生の彫刻家末改百夫氏から寄贈されたモニュメントで、浅野川がイメージされているという高さ2.3メートルのステンレス製の作品。



⑬ 「里山回廊」出発地点標柱

2002年4月21日、角間キャンパスから奥卯辰山健民公園へ「里山回廊」が整備された。角間キャンパスの出発地点から奥卯辰山健民公園までは、起伏に富んだ1.1キロメートルの散策路が続く。



⑭ 石碑「本立而道生」（「本立ちて道生す」と読む。出典：論語）

第8代学長の岡田晃先生書の碑。1996年7月、総合移転第1期計画事業の完成を記念して、クスノキとともにその植樹記念の碑として岡田学長から寄贈されたもので、材質は人工戸室石。「根本が確立されると、行くべき道があるのだと出てくる」の意。



⑮ 文・法・経済学部棟の陶壁「彩流」

文・法・経済学部棟1階学生ラウンジの陶壁は、3学部が移転した際に、法・経・文同窓会から寄贈されたもの。金沢市出身の陶芸家中村錦平氏の作品で、未来に羽ばたく鳥をイメージしている。



大学の記念碑

① 金沢大学標石 (揮毫：岡田晃第3代学長)

1996年3月、旧城内キャンパスの敷地が県に売却され、石川門前にあった旧標石が角間に移設とともに、新しい「金沢大学」の標石が角間に設置された。47トンの戸室石（医王山の戸室地区で採取される天然鉄石で、金沢城の石垣・礎石や兼六園の躰が池にかかる石の橋に使われている）で作られており、金沢大学の新しい顔となっている。



建物の特徴

⑯ キャンバス面積…角間キャンバスの面積は約200ヘクタール。單一キャンバスとしては国立大学で3番目の広さを誇り、石川県立野球場の約100倍の広さがある。



⑯ 正面階段

中央バス停から最初に目にする正面の大階段は104段あり、毎朝の授業開始時間には、急いで階段を駆け上る学生の姿が多く見られる。

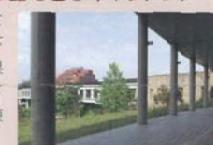
⑰ 兼六園から見えない角間キャンバス…キャンバス内の建物は、兼六園からの眺望を損ねないように高さが制限されている。しかし、JR金沢駅前の高層ホテルからは見えるという。

⑱ アカンサスインターフェイス（連絡橋）
北地区と中地区を結ぶ「アカンサスインターフェイス」、中地区と南地区を結ぶ「南アカンサスインターフェイス」があり、命名の由来は校章デザインにある多年草の植物「アカンサス」と全学の交流の場との願いを込めた「インターフェイス」を組み合わせて名付けられた。アカンサスは全長136メートル、上下2層式で天気のよい日は上を歩くと気持ち良い。南アカンサスは全長97.6メートル、V字型の脚が特徴。



⑲ 雨や雪に濡れずに各建物を移動できるキャンバス

雨や雪が多い角間キャンバスでは、傘をささずに移動できるようにと、各建物が渡り廊下や地下連絡通路で結ばれている。大学会館裏道側に設けられた園木の稚木（かわぎ）をイメージしたコロネードや自然科学研究科各棟が2階で結ばれるコリドー（回廊）もこれ。

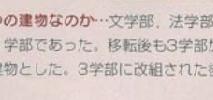


⑳ 教育学部にはなぜ円形の柱があるのか

角間キャンバス内の大講義室は、学生が講義に集中しやすいように円形講義室となっている。教育学部では一番広い講義室を最上階に置いたので、その講義室を支える柱を、講義室の形とデザインを統一するために円形となった。



㉑ 文学部、法学院、経済学部がなぜ1つの建物なのか…文学部、法学院、経済学部は1980年まで法学院という1学部であった。移転後も3学部が緊密な関係を維持していくために1つの建物とした。3学部に改組された後も現在に至るまで事務部は1つである。

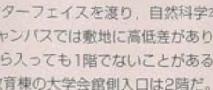


㉒ 自然科学本館にエスカレーター？

自然科学本館玄関から入ったアカデミーホールの階段機、証明書発行機が置かれているところには、エスカレーターの建設が予定されていた。現在のところ実現に至っていないが、予算が認められればエスカレーターがつくかも。



㉓ 建物の階数が変？…南アカンサスインターフェイスを渡り、自然科学本館玄関から入るとそこは地下2階。角間キャンバスでは敷地に高低差があり、連結した建物の階を合わせるために、入口から入っても1階でないことがある。



㉔ 各学部のカラー…角間キャンバスのサイン計画として、1988年に各学部の色が定められている。文学部は苅安（かりやす）色、教育学部は青藤色、法学院は橙（だいだい）色、経済学部は露草色、理学部は青磁（せいじ）色、薬学部は藤紫色、工学部はエメラルド・グリーン。

科学にふれるもの

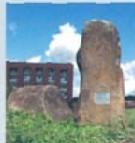
㉕ 太陽光発電

インキュベーション施設、自然科学本館及び同1号館屋上には、太陽光発電の設備があり、大学で使用する電力の一部として利用されている。



㉖ 角間キャンバスのストーンヘンジ？

共同研究センター近くに巨大なストーンヘンジ…これはGPSを用いてキャンバスの緯度・経度・標高を測定するためのもので、2メートルの支持台の上には測定用のGPSアンテナが設置され、何年にもわたって繰り返し測定することでキャンバスの地盤変動がわかるという。



㉗ 海底だった角間キャンバス…角間キャンバスの下の大桑（オシマ）層から2枚貝、貝巻、サメの歯などの化石が発見されていることから、100万年～150万年前には、キャンバス付近は海底だったと推察されるという。

自然にふれるもの

㉘ 金沢大学の社

1996年2月、金沢キャンバスを、アメニティに富み併せて市民にも愛されるキャンバスとするために、①「ゆかりの社」②「ふれあいの社」③「まなびやの社（群）（計7か所）」からなる「金沢大学の社」を設置した。



①「ゆかりの社」(約5,000平方メートル)

旧城内キャンパスで学生・教職員に親しまれてきた樹木など本学及び金沢の古き伝統を感じさせる樹木を中心にお祀りしている社。

②「ふれあいの社」(約3,000平方メートル)

大学と市民とのふれあいを創出し、大学と地域との交流を深めるための社。金沢市主導の新規記念樹などで植えられたコブシ等の樹木で構成。

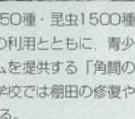
③「まなびやの社（群）（計7か所）」(約5,000平方メートル)

学生の卒業及び教職員の退職・永年勤続表彰など様々な機会を記念して植えられる記念樹の社。



㉙ 角間の里山

市街地に隣接し、昔から市民に身近な里山として親しまれてきた角間丘陵地を金沢大学では「里山ゾーン」に指定した。里山には、アベマキ、コナラなどの落葉広葉樹、スギ造林、モウソウ竹林、ハンノキ林などがあり、哺乳類7種（キツネ、タヌキ、ウサギ、カモシカなど）、絶滅危惧種を含む鳥類50種・昆虫1500種など多くの動植物が生息しており、学内の教育・研究への利用とともに、青少年・地域住民に学習活動や自然体験など様々なプログラムを提供する「角間の里山自然学校」の場として活用されている。また、自然学校では朝市の修復や竹林の手入れを行って、里山の保全・活用に取り組んでいる。



㉚ 森林観測タワー

角間の里山の中に、気象観測するためのタワーがある。21世紀COEプログラムのメンバーが、タワーの上中下各地点での生態昆虫の調査や大気中のチリやホコリ、黄砂などを採取して大気汚染の状況を調査している。



㉛ 創立50周年記念館「里山の家」(仮称)

角間キャンバス入口近くの角間川沿いに、創立50周年記念のメイン事業として、白峰村にあった古民家を移築したもので、土間や囲炉裏を置いて、角間の里山自然学校をはじめとする金沢大学の社会貢献の拠点として利用される。



「金沢大学〈角間〉あれこれガイド」についてもっと知りたい方は、金沢大学ホームページ <http://www.kanazawa-u.ac.jp/info/access/access.html>をご覧下さい。
〔編集〕金沢大学広報室 TEL: 076-264-5024